

# 日本—アゼルバイジャン： ハイレベルの協力

ムサ・マルジャンリ、  
編集長

二国間外交関係の樹立以来、長年にわたり、日本とアゼルバイジャンの関係は、政治だけでなく、経済、人道分野でも順調に発展してきました。今日、両国間の高レベルの互惠経済協力を表明する十分な理由があります。このテーマについては、在アゼルバイジャン日本大使館参事官が最新号に掲載した記事で取り上げられています。2020年と2023年の軍事的出来事の結果、アゼルバイジャンはその領土をアルメニアの占領からほぼ完全に解放した後、この国との関係は依然としてアゼルバイジャン国民の注目の的であり、国際舞台でも注目を集めています。この雑誌の今号には、アルメニアのアゼルバイジャンに対する地雷戦争と、解放された土地の回復とそこへの住民の帰還への障害を含むその影響に関する、アゼルバイジャン地雷対策庁長官による記事が掲載されています。このテーマに関連した記事は、現在のアルメニアの領土からの何十万人もの難民と彼らの故郷への帰還というアゼルバイジャン国民にとっての非常に深刻な問題に特化した記事です。今日、アゼルバイジャンが領土保全のための戦いに勝利した後、解放されたカラバフにアルメニア人を再統合するための措置を講じるならば、残念ながら、アルメニアの指導者らは、アゼルバイジャン人が歴史的に定住していたこの国への帰還問題について議論することにまったく消極的であることを示しています。アゼルバイジャンのカラバフ地方の領土にあるコーカサス地方アルバニアのキリスト教記念碑に捧げられた記事にも触れておきましょう。

今号では、中世および現代のアゼルバイジャン建築をテーマにしたさらに 2 つの資料が掲載されます。そのうちの1つはナヒチェヴァン地方の中世の要塞都市について、もう1つはバクーのヘイダル・アリエフ・センターについて語っています。このセンターはアゼルバイジャンだけでなく世界の現代建築の重要な例に属します。私たちの雑誌の最新号が、アゼルバイジャンについての知識を広げたいと思っている尊敬する読者にとって役立つことを願っています。